

十条ケミカル

—インキ、コーティング剤でイノベーションの最前線に立つ—

研究開発へ力を入れる十条ケミカルは、自動車工業ほか基幹産業に製品を供給しながら、従来インキよりもCO₂の排出を抑えたUVインキのような製品を開発してきた。

「2021年以降弊社の工場で使用される電力は100%水力発電による再生可能エネルギーになっています。これは弊社の全拠点で使用される電力の90%以上に相当します」—十条ケミカル株式会社 小山 裕 社長

1957年の創業以来、スクリーンインキメーカーの十条ケミカルは電子デバイス、医療器具、化粧品、ファッションと多様な産業に広がる顧客にむけ、革新的な製品を提供してきた。勤勉さ、ぶれない姿勢、そして明確な計画により、将来も国内外での成功が期待される。

「継続的、安定的に高品質の製品を創り出すことができる、それが弊社の中心となる強みの一つです」同社社長の小山裕はそう話す。「しかしながら、日本で地域限定的に製造を続けたのでは、コストは上がっていきます。ですから他の日本企業と同様、弊社も“ものづくり”方法論を海外へ移すこと、弊社製品を海外の市場で創造・製造し、販売すること、これらにより総合的にコスト削減ができるものと考えています」

さらに「弊社は海外事業のノウハウにより、日本の大企業が得意とする低い労働コストの活用も可能になりました」と付け加える。

スクリーンインキ市場の競争が激化するなか、十条ケミカルがアドバンテージを見出しているものがUVインキだ。

「スクリーンインキ市場には多くの競合があるので、弊社の最高品質のUVインキには強みがあると信じています」小山社長は説明する。「UVインキはお客様から高い評価をいただき、弊社の売上の多くはUVインキによるものです。機能性イン

キ、例えば導電性や絶縁性を持つインキ、についても非常に高い評価を得ています」

イノベーションに関していえば、継続的に環境を変化させる為には新しいアイデアがいかに重要か、同社にはそれが分かっている。

「弊社を含むスクリーン印刷産業の市場は、今後縮小していくでしょう」小山社長はそう考える。

「ですから、弊社は新製品開発に最大限の力を注いでいます。そしてイノベーションを起こしたい。今弊社の研究開発には2つの重要テーマがあります。1つは自動車関連であり、具体的にはワイヤーハーネスの代替となり得る導電性インキ、そしてEV用バッテリーに使えるラミネート材です。2つ目のテーマは環境への対応です」

「これら2つの分野には劇的な変化を伴い、変化は固有の挑戦をもたらすと考えます。挑戦というのは例えば、環境に優しい新製品を提案することであり、もしかするとそれは水性の製品であり、バイオ原料を使った製品であるかもしれません。また、弊社は近い将来普及してくるペロブスカイト太陽電池に自社インキを用いて導電層を形成するという開発も行っています。これが弊社の研究開発戦略の2つ目の柱です」

このアプローチは、国際的な共同研究というところへ我々の視点を戻させる。

「現時点で、他社との深い協力関係があるわけではありませんが、もちろん可能です。弊社が焦点を当てる分野での開発課題によっては、最適な企業との共同研究は開発スピードと品質を両方とも高めることにつながるでしょう」

「現在の地域人口に加えて市場の成長が見込めるため、これからの弊社のターゲットは中国と、東南アジアです。弊社には、すでに台湾、タイ、中国そしてインドに拠点があり、これらが将来の集中地域になります。弊社の海外ビジネスの特徴ですが、日本人は現地に駐在しておらず、すべての従業員がローカル採用です。そのことにより、現地のお客様へ現地の考えでサービスできるとともに、ニーズに対するサポートが可能となります」

小山社長は、従業員が高いモチベーションで、自ら目標設定できるような活気ある労働環境を作り上げることに熱心だ。それはつまり、人々の生活を豊かにできるユニークで革新的な製品の提供という同社の目的へとつながっていく。

「お客様が喜んで買ってくださる製品が多ければ多いほど、私たちは社会貢献できていると考えています」社長はこう締めくくった。